

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771300427		
法人名	株式会社 讚光		
事業所名	グループホームくすの木		
所在地	香川県木田郡三木町池戸2362番地		
自己評価作成日	令和 6 年 2 月 9 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の進行や歩行不安定で、常に見守りが必要で付き添いのいる利用者様や車イスが必要な方が増えていますが、出来る限りできる事は自分でしてもらっています。一人ひとりができる事で役割を持ち楽しく過ごせるよう支援しています。また、認知症の進行具合が異なる為、御利用者様のペースに合わせ、個々に合った個別の支援を心がけています。協力病院も24時間体制でのバックアップ体制が整っており安心して生活していただけるようになっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3771300427-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 6 年 3 月 5 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長、管理者、職員の永続勤務があり、時間がかかっても素晴らしい施設に心がけようとして一丸となっている施設である。管理者は、職員みんな幸せになれるように日々介護に従事している。利用者の笑顔やみんなでうたう歌を聞いたり、楽しい食事の話で盛り上がる風景を見ると、小さな幸せを見つけるのが上手になり、管理者がハッピーだと、利用者もハッピーになることに気づき、自然と”ねばならない”という思いから”にしてもよい”という気持ちに変わり、ポジティブな回路になった。様々な人の意見を真摯に受け止め、職員一同、一緒に考え、一步一步前進して、家族に安心して頂く医療連携を携えた施設を築いている。やり甲斐があって生き甲斐となるから、職員は長く勤める事ができて、手に手を取って笑顔を利用者に向けることができている施設であった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年終わりに目標の反省をし、年初めに理念等を踏まえ年間目標を立てている。常に意見交換を行い、目標に向かい日々介護支援に取り組んでいる。	理念は1階の玄関前と2階のホール、各階の事務所に掲示している。法人理念の3つの柱を参考に年間目標を立てている。年1回の全体会議にて、職員に周知している。年間目標については、各ユニットの職員間で話し合っ決めて、途中で振り返りの場も設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	気候の良い日は、近所の天神さんや安養寺へ散歩に出かけ、近所の人とも挨拶を交わしている。隣の敷地で農学部の子供さんが作業をしていると手を振って挨拶している。琵琶や桃など実るのを観賞させてもらっている。	秋には芸術フェスティバルに参加して、絵や編み物の作品を見た。身代わり地蔵まで散歩に行き、掃除をされている方と挨拶を交わしている。大学の果樹園が隣接しており、手を振って挨拶している。法人の託児所が施設横にあり、出会った子ども達と挨拶を交わし、利用者は満面の笑みを浮かべている。	地域との交流を深められるように工夫してみたいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開き、資料等を活用し認知症について理解を深めていただけるように努めている。また、月一回の定例会では、他事業所との意見交換も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	見合わせていた運営推進会議も昨年5月より再開し、ホームでの日々の生活や行事の様子、近況を報告し意見を頂いている。また認知症についての理解を深めて頂けるよう努めています。	現在は対面で実施している。地域包括支援センター、役場の福祉課、民生委員2名、老人クラブ会長、GH職員が参加している。入居者状況、空室状況、行事報告を行った。直近では地震があったので、避難方法についての再確認をすることができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者の方とも日頃から良好な関係を気づけるよう努め、書類作成時や運営推進会議で助言や意見をいただいている。	窓口の基本は両ユニットの管理者だが、施設基準に関する内容の場合は施設長が対応している。何かわからないことがあれば、親切丁寧に教えて頂ける。運営推進会議にも参加して頂いているので、情報交換ができています。またメールで情報が届いて、やり取りしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、毎月身体拘束の検討会を開き、拘束を出来る限りしない為の話し合いを行い、身体拘束をしないケアを実践できるよう努力している。	法人合同で身体拘束委員会は3ヶ月に1度、全体の勉強会は年に1回開催している。原則禁止事項や弊害の確認をして、職員間で意見を出し合い日常のケアに対する意識を高めた。事故防止のため、車イスの安全ベルトを着用している方もいる。基本ユニット間の扉は開けており、センサーを完備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	近年、高齢者虐待についてのニュースを目にする事が多く、常に言葉使いや御利用者様への接し方等考え注意し、虐待についての勉強会も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の問題が生じた場合は、家族・関係者に連絡をし、対応している。また、勉強会も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には重要事項説明書にて、わかりやすい言葉で説明し、疑問点や不安が無いように本人や御家族様に同意を得ている。また、退去時にも説明を行い、御家族様の不安がないよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御利用者様からの要望は日々の会話よりくみとり、職員間で共有し介護に反映させるようにしている。御家族様とは、面会時や遠方の家族には電話にて、近況報告を行い要望・苦情を伺うようにしている。	面会は対面で各ユニットのホールや居室で実施できている。散歩をしながら家族との会話を楽しんでいる。何か様子に変化があった際には、電話にて連絡をしている。3ヶ月に1回「くすの木便り」と担当の職員からのコメントを一緒に同封している。食事レクの際には、何が食べたいかを確認してメニューに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出た意見・要望は、随時管理者に伝え、毎週ある管理者会議で検討されている。また、運営に反映されている。	何かあれば随時管理者に伝える機会があり、週1回、管理者会議にて情報共有ができています。便座や水道が故障した際には、施設長が修理した。職員同士の風通しも良く、プライベートの会話も多く、笑顔があふれる職場環境となっていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成は、職員の希望を重視し毎月作成している。また、全職員が有給を取れるよう努めている。年2回の相互評価を行い、賞与等にも反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加できるよう勤務形態にも配慮している。研修後には、報告を行い他職員にも研修で得た情報等を伝え、共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の医療施設や施設と情報の交換・共有を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御利用者様から生活歴や自宅で困っていた事等を伺い、ホームでの暮らしについての要望や不安を聞き、要望に応えられるよう努め、職員と話し合い支援している。入居後も話を伺い、安心して暮らせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様・ご家族様から意見や要望を伺うことにより、困っていることや不安が無くなるように努めている。面会時や必要物品の連絡や持参していただいた時に、ご家族とも信頼関係が築けるよう近況報告等を行い、積極的に会話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・御家族・主治医等と相談して、何が必要かを見極められるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き・洗濯物たたみ・プリンターの水やり等出来ることは、手伝ってもらい、職員や他利用者と共にしている。御利用者様にあつた役割を持って頂き、活躍の場を提供できるよう援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時などには、近況報告を常に行っている。認知症が進んだり、身体能力の低下から御家族との外出の機会が減っているが、面会時に居室やホールでゆっくりと会話できるよう支援している。身体機能の低下が少なく外出可能な御利用者様は本人の希望もあり御家族様の都合に合わせて外出の機会を設けていただけるよう相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過が明け県外のご家族様や親類の方など制限を設けず面会していただけるよう努めている。	面会は対面で各ユニットのホールや居室で実施している。散歩をしながら家族との会話を楽しんでいる方もいる。元学校の先生だった方は、教え子から手紙が届いて、来訪もあった。家族との外出後に自宅へ戻ってリラックスされた方もいる。正月には、初詣に出掛けて納豆おはぎを食べたら喜んで頂けた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症が進行している方や耳が遠い利用者様には、職員が間に入り、他利用者様とも会話が成立するように支援している。また認知症の進行具合が入居者様それぞれ違う為トラブルにならないよう注意している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去先が施設の場合は、事前に情報を提供している。相談や問い合わせがあれば、その都度対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、希望や意向を聞き取り、全職員と情報共有している。また、御利用者様の希望等に沿いながら支援できるよう努めている。	利用者がポロっと発言したものは、その都度申し送り時に伝えて職員間で共有している。日常生活でも利用者に寄り添い、耳を傾けるように工夫している。「何か食べたいものはありますか?」と質問したら、カレーうどんが食べたいとの声が多数挙がり、次回の食事レクに取り入れる予定である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に御利用者様・御家族様にインタビューをとり情報の把握に努めている。新しい情報を得た場合は、全職員に申し送りをし、また書類にて目を通し把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の支援の中で日々の様子観察も行い、御利用者様の変化や築きがあれば、報告し申し送りをして全職員が心身状態の把握をできるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度御利用者様にも伺い、面会時には御家族様と話し、希望や意見を聞いている。担当制にしてプランを検討し、話し合い介護計画を作成している。担当者会議に御家族様にも参加していただけるよう声かけし、意見を頂くようにしている。	介護計画は3ヶ月ごとにプランを見直し、何かあればその都度更新している。散歩や買い物に出掛けたいとの声が挙がり、プランに盛り込んで実際に行くことができた。家族にも担当者会議に参加して頂き、現状に即したプランとなるように工夫している。モニタリングは3ヶ月毎に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に、日々の生活状況を記入して評価している。申し送りノートも活用し全職員が情報を把握し、実践できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族様から要望がある場合は、出来るだけ要望に沿えるように、その都度検討・対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌や踊りのボランティアの訪問があったが、コロナ過で中止したりする事があり、交流が減っている。以前のようにボランティアの訪問来ていただけるよう努めていきたい。また、状況に応じて外出を計画し、初詣に長尾寺や花見に亀鶴公園や白山、秋には西徳寺に銀杏見学等出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に主治医の確認を行っている。協力病院への受診や医師の往診により、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は全員が協力医に転医していて、月2回の往診に来られている。主治医との関係性も良く、24時間の対応が可能となっている。会長ドクターが来た際には、利用者は満面の笑みを浮かべている。認知症の専門医への受診も対応していて、3ヶ月に1回定期診断に歯科の訪問もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院があり、何かあれば報告をし診ていただける。また、緊急時にも対応できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、添書を添え情報提供を行っている。退院時にも添書にて情報を得ている。不明な点がある場合は連絡・確認し、情報交換も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御利用者様の状況や、御利用者様・御家族様の要望や主治医とも相談して対応している。チームで支援出来るように取り組んでいる。	協力体制は整っているが、開所してから看取りの経験はない。入居時に、重要事項説明書にて説明し、同意を交わしている。重度化した際には、家族へ意向を聞いているが、看護師が常駐している隣接の施設への転居希望が多い。入居時に、重要事項説明書にて説明し、同意を交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応については、定例会での勉強会等があり備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は夜間・昼間それぞれを想定し行っている。台風接近時には、土嚢を自治防災組織の方で作ってもらうこともあり、協力体制は出来ている。	年2回昼夜想定で地震・火災対策の訓練を実施し、利用者も一緒に避難することができた。避難訓練は、隣接施設と合同で行っている。備蓄は、3日分の水分と食料が隣接する施設で一括保管している。前回の評価結果を受けて、扉の前に利用者の歩行状況を貼り出して「見える化」に至った。	災害対策について見直してみたいかがでしようか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し支援するように努めている。特に、排泄時の声かけや入浴時には、誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。	呼称は苗字に「さん」付けを基本とし、家族の了承を得た上で、親しみやすい別の呼び方で呼ぶ場合もある。入浴やトイレへの言葉掛けは、他利用者に聞こえないように耳元でお伝えするように配慮している。居室に入る時は必ず、ご本人に確認するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活支援をしていく中で、御利用者様の希望等を聞くようにしている。また、レクリエーション等の参加や休憩時間なども御本人の意思に任せ、御本人のペースで過ごせるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御利用者様一人ひとりのペースを大切にし、その人らしく日々の生活を送れるよう、声かけ等に気を付けながら援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅で着用していた服を持参してもらい、その人らしいおしゃれや身だしなみができるよう援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染予防に努め、職員もできる限り同じテーブルで食事を摂るようにし、会話も楽しみ、御利用者様の味付けや好みも把握できるよう努めている。食器の片づけや食器拭き等、御利用者様が出来ることやしたい事を職員と共に行っている。	食事に携わることを楽しみにされている方もいて、職員と一緒に下ごしらえを行っている。月1回、昼食は利用者の食べたい物を提供し、月2回、おやつ作りの日を設けている。食事は隣接する施設の厨房から届き、毎月1日には赤飯を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、病歴に合わせ管理栄養士が立てた献立で提供。毎食後には、食事量の確認と記録を行っている。ティータイム等を設け水分摂取も、楽しみながら美味しく頂けるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後に、声かけや付き添いを行い口腔ケアをしている。不十分な場合は介助を行っている。夕食後には、義歯の消毒洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄間隔を把握し声かけやトイレ誘導を行っている。早めのトイレ誘導を心がけ本人の意思も尊重しながら排泄の失敗を減らせるよう支援している。	トイレ誘導は、一人ひとりに合わせて行っている。排泄用品の使用頻度を意識しながら、その日の体調やリズムを職員同士で日々話し合い、タイミングを調整している。排泄の失敗があっても対応できるように、浴室とトイレが隣り合わせなので、他利用者に気付かれない配慮ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をあまり摂らない御利用者様には、好む飲み物を準備するなど、御利用者様個々に応じた予防に取り組んでいる。排泄チェック表を付け、排便間隔や量を把握できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の一人ひとりの状態やタイミングをみながら、本人の意思を尊重し入浴の声かけを行っている。会話をしながらお湯の温度や好みを把握し楽しく入浴できるよう援助行っている。	週2～3回の提供。脱衣所には備え付けの木の長椅子が設置されていて、利用者が腰掛けることで安全面にも配慮されている。入浴を拒否される方へは、時間や職員を変えて対応し、「温かいよ～」「寒くないよ～」と言葉掛けをしている。季節湯としてゆず湯の提供もあり、入浴剤を使用して気分転換を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握して本人の希望・状態に合わせ、個々に休憩時間を設け支援している。夜間の就寝時間も個々に合わせて対応し異なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時にもらう処方箋を確認し、個々のファイルに保管している。服薬内容の変更時には、申し送りを行い、職員が把握できるようにしている。他病院受診時には状態や処方箋を主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器拭き等、それぞれ御利用者様が出来ることを手伝ってもらい役割となっている。レクリエーションでは楽しんでもらう為、合唱や歌など御利用者様が好むことを取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	好天日には、御利用者様の希望を聞き、ホーム周辺に散歩に出かけている。また、他施設の職員も見かけると、声をかけてくれたり、車イスを押ししたりしてくれる。花見や菖蒲見学、初詣など、季節に合わせた外出支援を行い季節観を感じてもらえるよう努めている。	近所に身代わり地蔵や安養寺があり、本人の意向に合わせて散歩している。春には亀鶴公園までドライブがてら桜、夏前には菖蒲の見学に出掛けた。秋には、芸術フェスティバル、初詣で納豆おはぎを食べて四季折々を感じて頂いている。職員が出掛けた時に風景を写真に撮り、利用者に見て頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知機能のレベル低下により現在は、本人がお金を所持している御利用者様はいないが、職員と食事作りの食材を買いに行くことがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御利用者様に御家族や親族から手紙が届く事もあり、届く度に見ていただいている。字を書くことが難しくなってきたりいる方もいるが、年末には年賀状を書き、御家族に送っている。電話は自由に使用できる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった装飾や御利用者様がした塗り絵を飾っている。また、テレビの見やすい位置にソファを設置し、畳のスペースでも、横になってもらえるようクッション等を用意し配慮している。各居室の光や温度は、個々に合わせ調節している。	玄関には、行事の際に生花を飾り、石庭も設けられている。フロアには畳スペースがあり、利用者が寛げる場となっている。午前中は、ラジオ体操やティータイムが日課となり、ことわざのなぞなぞや懐メロを歌っている姿が窺えた。壁面には、季節を感じられるような掲示物が貼られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った御利用者様同士が隣の席になるよう配置に注意している。ソファや畳のスペース、その時の気分で好きな場所で自由に過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族様が持参された曾孫の写真や家族写真、利用者様が好きな雑貨等を置くことにより、居心地よく過ごせるよう工夫している。	備え付けはベッド、エアコン、カレンダー、鏡、ハンガー掛け、飾り棚付きのタンス。室温がわかるように扉の横には温度計が設置されている。家族や孫の写真が大切に飾られていて、塗り絵が好きな方は、職員お手製の冊子が堂々と置かれていた。ご主人の写真に「お父さん、今日も行ってくるね。」と挨拶される方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室は、個室で段差もなく、安全でプライバシーが保てるようになっている。バリアフリーのため車イスでも安全である。トイレの場所がわからない御利用者様のために、分りやすいようトイレの表示をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771300427		
法人名	株式会社 讚光		
事業所名	グループホームくすの木		
所在地	香川県木田郡三木町池戸2362番地		
自己評価作成日	令和 6 年 2 月 9 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症が進み、常に見守りが必要で付き添いのいる方や車イスの御利用者様が増えていますが、出来る限りできる事は自分でしてもらっています。一人ひとりができる事で役割を持ち楽しく過ごせるよう支援しています。また、御利用者様のペースに合わせ、個々に合った個別の支援を心がけています。協力病院も24時間体制でバックアップ体制が整っており安心して生活していただけるようになっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaikogensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3771300427-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 6 年 3 月 5 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長、管理者、職員の永続勤務があり、時間がかかっても素晴らしい施設に心がけようとして一丸となっている施設である。管理者は、職員みんな幸せになれるように日々介護に従事している。利用者の笑顔やみんなでうたう歌を聞いたり、楽しい食事の話で盛り上がる風景を見ると、小さな幸せを見つけるのが上手になり、管理者がハッピーだと、利用者もハッピーになることに気づき、自然と”ねばならない”という思いから”にしてもよい”という気持ちに変わり、ポジティブな回路になった。様々な人の意見を真摯に受け止め、職員一同、一緒に考え、一步一步前進して、家族に安心して頂く医療連携を携えた施設を築いている。やり甲斐があって生き甲斐となるから、職員は長く勤める事ができて、手に手を取って笑顔を利用者に向けることができている施設であった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、年間目標は事務所に貼り、職員全員で理念を共有し業務に取り組んでいる。目標は職員全員で考え、業務に取り組んでいる。年度初めには、全事業所で目標確認を行い、サービスの実践に取り組んでいる。	理念は1階の玄関前と2階のホール、各階の事務所に掲示している。法人理念の3つの柱を参考に年間目標を立てている。年1回の全体会議にて、職員に周知している。年間目標については、各ユニットの職員間で話し合っており、途中で振り返りの場も設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	秋には地域の獅子舞の訪問などで季節感を感じてもらおうとしている。獅子舞は利用者も毎年楽しみにしている。今年から再開した池戸芸術フェスティバルの展示見学に行き、地域の方との交流の機会も作っている。	秋には芸術フェスティバルに参加して、絵や編み物の作品を見た。身代わり地蔵まで散歩に行き、掃除をされている方と挨拶を交わしている。大学の果樹園が隣接しており、手を振って挨拶をしている。法人の託児所が施設横にあり、出会った子ども達と挨拶を交わし、利用者は満面の笑みを浮かべている。	地域との交流を深められるように工夫してみたいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では市町村の担当者、包括センターの出席、民生委員、老人会代表、家族代表、利用者代表あり、報告や話し合い、地域からの情報提供もありサービスの向上に生かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎月の利用者さんの活動状況を写真で説明し、より詳しく知って頂くよう務めている。又、認知症の勉強会を行い認知症の理解に努めている。書類を作成し、日々の様子や行事や近況を報告、認知症についての資料を添付し情報交換や意見を求めている。	現在は対面で実施している。地域包括支援センター、役場の福祉課、民生委員2名、老人クラブ会長、GH職員が参加している。入居者状況、空室状況、行事報告を行った。直近では地震があったので、避難方法についての再確認をすることができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者の方とも日ごろから関係を密に行い、書類作成に助言をいただく等良好な関係を築けている。	窓口の基本は両ユニットの管理者だが、施設基準に関する内容の場合は施設長が対応している。何かわからないことがあれば、親切丁寧に教えて頂ける。運営推進会議にも参加して頂いているので、情報交換ができています。またメールで情報が届いて、やり取りしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束禁止の具体的な内容を正しく理解し、学ぶ機会もある。認知症の進行により、安全に生活する為、玄関の施錠はしている。その他の身体拘束については行わないケアに取り組んでいる。	法人合同で身体拘束委員会は3ヶ月に1度、全体の勉強会は年に1回開催している。原則禁止事項や弊害の確認をして、職員間で意見を出し合い日常のケアに対する意識を高めた。事故防止のため、車イスの安全ベルトを着用している方もいる。基本ユニット間の扉は開けており、センサーを完備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の勉強会は毎年行い、職員も意識づけできている。又、更衣時入浴時に皮膚の状態の観測行い異常がないか注意し介護に努めている。もし異常がみられた場合は原因究明に努め改善策の検討を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員は勉強会もあり、自立支援や成年後見制度で個々の必要性を認識しており、話し合っている。成年後見制度利用している入居者様もおり必要性は理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項の説明行い、家族本人が不安にならないよう説明を行い、疑問に答えている。退所時には説明を行い納得ができるまで話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族さん本人の要望、意見を聞き介護に反映させている。玄関には意見箱を設置し、より多くの方の意見を取り入れるよう努めている。実施、難しい時は朝の会に提出上司の意見を聞き介護に反映させている。コロナ5類後は、面会解除になり、県外の家族様も来られるようになったため、意見や要望を直接お聞きする機会も増えている。	面会は対面で各ユニットのホールや居室で実施できている。散歩をしながら家族との会話を楽しんでいる。何か様子に変化があった際には、電話にて連絡をしている。3ヶ月に1回「くすの木便り」と担当の職員からのコメントを一緒に同封している。食事レクの際には、何が食べたいかを確認してメニューに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週月曜日には、各部門の管理者と会社の代表者が集まる機会があり、各所の問題点などを話し合い意見を聞く機会を設けている。問題点などあれば解決に向け話し合い、管理者はその内容を部署に持ち帰り職員と共有している。	何かあれば随時管理者に伝える機会があり、週1回、管理者会議にて情報共有ができている。便座や水道が故障した際には、施設長が修理した。職員同士の風通しも良く、プライベートの会話も多く、笑顔があふれる職場環境となっていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年数回、考査表にて各自、勤務状況のアピールを行う機会がある。各々が努力している事などを記入し提出している。働きやすい職場環境作りを各々考えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部から講師を招いて、研修を行う、外部でセミナー講習の発表、法人内での研修の機会がある。勉強した事を持ち帰り定例会で勉強している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協力病院での会議に同席し、情報の共有を行う機会がある。勉強会に合同参加の案内があり、一緒に参加し、交流の機会もあり、サービスの向上に努めている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が安心して生活できるよう努めている。入居前の生活や職歴、趣味などお聞きし、利用者の要望に沿えるように新しい関係づくり構築に努めている。申し送り時には、情報の共有を行い、同じ介護を行えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と話し合い必要なサービスを提供できるよう努めている。面会時には家族と話す機会を持つようにして、不安や要望などがあれば耳を傾け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス作成時は本人がよりよく暮らすための課題をチームで話し合い、必要なサービスを見極めている。もしそのサービスに変更が必要な時はその都度対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや暮らし方の意向を把握し、毎日の生活を一緒に考えるよう努めている。シーツ交換時は一緒に作業を行い出来る事は手伝ってもらっている。食後の食器拭きなど利用者が、それぞれ出来るようなことを職員と共にやり関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人の状況をより詳しく話し、家族と協力関係が出来るよう接している。特変時には家族の報告、了解のもと受診行っている。その後家族に受診結果を伝え共有行っている。必要時には受診付き添いを依頼している。共に支えていく関係ができています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍後、面会解除になり兄弟や家族が面会に来られ、楽しい時間を過ごされている。気候が良い時は、昼食作りの食材を職員と共に馴染みのあるスーパーに買い物に行っている。	面会は対面で各ユニットのホールや居室で実施している。散歩をしながら家族との会話を楽しんでいる方もいる。元学校の先生だった方は、教え子から手紙が届いて、来訪もあった。家族との外出後に自宅へ戻ってリラックスされた方もいる。正月には、初詣に出掛けて納豆おはぎを食べたら喜んで頂けた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく会話されたり、一緒に洗濯物を畳んだり、食器を拭いたりしている。朝には「今日も元気に会えたね」と朝の挨拶を行う姿がみられる。会話が難しい利用者にも朝・夕と一人づつに挨拶される利用者もいる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族の納得の元話し合い、退去手続きを行っている。施設での生活状況を詳しく書面で提供している。退去後も相談できる体制を整え支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族に暮らし方の希望、意向を聞いている。今までの暮らしを大切にしながら対応している。書き物が好きな方、お花を育てるのが好きな方など、それぞれの好きや得意を大切にしている。	利用者がポロっと発言したものは、その都度申し送り時に伝えて職員間で共有している。日常生活でも利用者に寄り添い、耳を傾けるように工夫している。「何か食べたいものはありますか?」と質問したら、カレーうどんが食べたいとの声が多数挙がり、次回の食事レクに取り入れる予定である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に知り得た情報は、全職員で共有し馴染みの暮らしの継続に努めている。本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人、場所との関係が途切れないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の体調や気分の把握に努めている。何かいつもと違う事があったり、気づいたことがあれば、他職員に伝え情報の共有を図っている。レクリエーションも心身状態など皆バラバラの為、一緒するのが難しかった時は、グループ分けに変えたり、個々の対応を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人や電話連絡時や面会時には家族と話し合い、現状に沿ったプランを作成に努めている。担当者会議を行い、御本人・家族・職員とケアについて話し合い、確認している。主治医からも連絡票を活用しプラン作成においての指示を頂いている。	介護計画は3ヶ月ごとにプランを見直し、何かあればその都度更新している。散歩や買い物に出掛けたいとの声が挙がり、プランに盛り込んで実際に行くことができた。家族にも担当者会議に参加して頂き、現状に即したプランとなるように工夫している。モニタリングは3ヶ月毎に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録記入時には毎日プランの評価の反省を行い、実践やプランの見直しを行っている。又、申し送り時にプランについて、話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	目標にとらわれず、その日の天気や状況により、個々に合わせて対応行うこともある。本人が楽しく生活して頂けるよう職員が常に心配りを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議で、老人会長と利用者さんと顔なじみになり「同級生や」と話を弾ませる事もある。楽しく話されている。同世代の話合いに、場の雰囲気も和み気分も変わり過ごされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の確認を行い、家族、本人の意向を確認し、継続して受診できるよう支援している。家族、本人さんの希望により、協力病院へ受診できるよう紹介している。かかりつけの歯科にも定期的な受診や往診を行ってもらい適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医は全員が協力医に転医していて、月2回の往診に来られている。主治医との関係性も良く、24時間の対応が可能となっている。会長ドクターが来た際には、利用者は満面の笑みを浮かべている。認知症の専門医への受診も対応していて、3ヶ月に1回定期診断に歯科の訪問もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の主治医の訪問診療。薬剤師の居宅管理指導が行われており、状態報告も行えている。特変時は早めの対応を心がけており、気になる事があれば看護師に伝え相談できる体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護添書にてより詳しく状況を伝えている。退院時は看護師、師長に今後の介護の重要点などを相談指導を受けている。看護添書にて入院時の状況を詳しく説明を受けている。病院との関係も常に相談できる体制ができている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時点で家族、本人を交えて重度化した場合を想定し話し合っている。同じ事業所のナースングホームも隣にあり、家族等も今後の選択の安心材料のひとつにもなっている。主治医の先生を交えてチームで支援に取り組んでいる。	協力体制は整っているが、開所してから看取りの経験はない。入居時に、重要事項説明書にて説明し、同意を交わしている。重度化した際には、家族へ意向を聞いているが、看護師が常駐している隣接の施設への転居希望が多い。入居時に、重要事項説明書にて説明し、同意を交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年緊急時の対応、事故防止の対応、身体拘束について等勉強をする機会がある。急変時に対応行えるよう蘇生訓練を行い、定期的に応用できるような対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は定期的に行い災害時にあてないよう実践している。他の施設との合同で訓練もしている。職員も消火器を使用し初期消火の訓練を実施している。	年2回昼夜想定で地震・火災対策の訓練を実施し、利用者も一緒に避難することができた。避難訓練は、隣接施設と合同で行っている。備蓄は、3日分の水分と食料が隣接する施設で一括保管している。前回の評価結果を受けて、扉の前に利用者の歩行状況を貼り出して「見える化」に至った。	災害対策について見直してみたいかでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合った、わかりやすい言葉かけを心掛けている。声かけ時、拒否があった場合は、時間をあけたり職員を変えたりして対応している。排泄に関しての声かけは、配慮して行っている。	呼称は苗字に「さん」付けを基本とし、家族の了承を得た上で、親しみやすい別の呼び方で呼ぶ場合もある。入浴やトイレへの言葉かけは、他利用者に聞こえないように耳元でお伝えするように配慮している。居室に入る時は必ず、ご本人に確認するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中の行事の参加も本人の意思を尊重し、意見を聴き実施している。レク時にも、本人より「色塗りの用紙がもうないです」「鉛筆、研ぎらして」「散歩に行きたい」等、利用者より、訴えもある。利用者同士の会話もあり、楽しく過ごされる場面もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天候により、散歩に行きたい等の要望があれば、近隣のお寺やお地蔵様まで行き、お参りをしている。居室でゆっくり読書などしたい利用者さまには、希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪をしてもらい、身だしなみに注意している。散髪後は「スッキリした」と笑顔みられる。誕生日には、御家族からのプレゼントで洋服やパジャマが送られる方もおり大変喜ばれている。毎日、翌日に着用する服を就寝前に選び準備されている利用者もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の片づけや食器拭きを他利用者、職員と共に行っている。それぞれの利用者様が行えることに合わせておしぼりたたみや片付けなどを行っている。月3回の食事作りやおやつ作りの献立を決める時には入居者様の意見を取り入れている。毎回食事作りやおやつ作りは楽しく参加されている。	食事に携わることを楽しみにされている方もいて、職員と一緒に下ごしらえを行っている。月1回、昼食は利用者の食べたい物を提供し、月2回、おやつ作りの日を設けている。食事は隣接する施設の厨房から届き、毎月1日には赤飯を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導の元、栄養バランスを考え確保できている。一人一人の状態に合わせて支援している。食事介助が必要な利用者には声かけをしながらゆっくり召し上がってもらえるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、義歯を外し口腔内を清潔に保つよう、声かけ職員付き添い指導している。一人一人の状態に合わせて支援している。入れ歯洗浄も毎週行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握で誘導、自分でトイレに行かれ、ナースコールで排便確認行う等その人の自立性を尊重している。トイレで転倒しないように、職員が付き添い支援を行っている方もいる。失禁時には排泄表にどれくらい失禁していたかなど記載し、次の声かけトイレ誘導タイミングの参考にしている。	トイレ誘導は、一人ひとりに合わせて行っている。排泄用品の使用頻度を意識しながら、その日の体調やリズムを職員同士で日々話し合い、タイミングを調整している。排泄の失敗があっても対応できるように、浴室とトイレが隣り合わせなので、他利用者に気付かれぬ配慮ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中、夜間共に水分補給を促している。あまり水分を摂らない利用者には様子を見ながら、こまめに摂取の声かけを行っている。コーヒーや紅茶など好みの飲み物を準備している。運動不足の時は、近隣への散歩、ホール内で歩行練習、体操を促すなど行い支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はその日の状況により、午前、午後に実施している。月8回にこだわらず、入浴出来るよう支援している。体調に応じゆっくり入浴出来るよう支援している。入浴介助で男性職員が苦手な利用者には女性職員がつくようにしている。毎回入浴剤を入れたり、ゆず湯の時にはゆずを浴槽に入れて楽しんでもらった。	週2～3回の提供。脱衣所には備え付けの木の長椅子が設置されていて、利用者が腰掛けることで安全面にも配慮されている。入浴を拒否される方へは、時間や職員を変えて対応し、「温かいよ～」 「寒くないよ～」と言葉掛けをしている。季節湯としてゆず湯の提供もあり、入浴剤を使用して気分転換を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れないと訴える方は、散歩や体操などのレクに参加して頂き夜間熟睡できるよう支援している。その人に合わせ、日中昼寝される方も居り、毎日の生活習慣を大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬時には主治医に現在の体調の報告を行い、適切な服薬を処方されている。又他の医療機関での処方薬も主治医に報告している。処方された服薬は確認を行い、職員全員に周知し、安全に提供できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人、その人に合った、役割を見つけ、毎日の生活に意欲を持って暮らせるよう支援している。毎日の洗濯物たたみや食器拭きなど行っている。衣類をたためない利用者のは、「してあげるで」と言われ畳んで下さる。お花が好きな利用者はお花の世話を職員と共に行い「肥やしをやり過ぎたらいかんで」等と助言をしてくれる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調、天気に合わせて希望される方は、近隣への散歩を促し気分転換を図っている。季節の移り変わりを感じてもらえるよう支援している。家族が迎えに来られ外出をしたり、希望時に自宅に短時間だが帰る利用者もいる。	近所に身代わり地蔵や安養寺があり、本人の意向に合わせて散歩している。春には亀鶴公園までドライブがてら桜、夏前には菖蒲の見学に出掛けた。秋には、芸術フェスティバル、初詣で納豆おはぎを食べて四季折々を感じて頂いている。職員が出掛けた時に風景を写真に撮り、利用者に見て頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	散髪希望される方は、本人家族の了解の下預かっている。支払時は自分で出来るよう支援している。家族さんも季節折々に、衣替えの衣類を持参されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話の取次ぎを行い、直接話されることもある。教師だった方には定期的に教え子からお便りがきている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁面には、季節を感じて生活できるよう、折り紙で四季折々の花を創作、和める場所を作っている。ホールは日差しが入り、毎日の天気を肌で感じ穏やかに過ごせる共用スペースができています。	玄関には、行事の際に生花を飾り、石庭も設けられている。フロアには畳スペースがあり、利用者が寛げる場となっている。午前中は、ラジオ体操やティータイムが日課となり、ことわざのなぞなぞや懐メロを歌っている姿が窺えた。壁面には、季節を感じられるような掲示物が貼られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者さん同士で毎日子供の頃の話し、、近所の人の話し、孫の話し等で笑顔で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々居室には、自宅で使用していた時計、テレビ等を持参され居心地良く居室で過ごされている。家族とともに撮った写真や孫の写真を居室において、楽しまれている。本や新聞を居室で楽しめる方には、テーブルを置きゆっくり読めるようにしている。	備え付けはベッド、エアコン、カレンダー、鏡、ハンガー掛け、飾り棚付きのタンス。室温がわかるように扉の横には温度計が設置されている。家族や孫の写真が大切に飾られていて、塗り絵が好きな方は、職員お手製の冊子が堂々と置かれていた。ご主人の写真に「お父さん、今日も行ってくるね。」と挨拶される方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分り難い人には、入口に目印を付けて分り易いよう工夫している。トイレ内では「排便時にはボタンを押して職員にお知らせください」と張り紙をし、利用者さんのナースコールにて確認を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				